

19/4/22 河村たかし名古屋市長定例記者会見(名古屋城関連部分のみ)

(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

河村市長: 次に、4月15日にフランスパリ市内のノートルダム大聖堂で発生しました火災についてでございます。

ノートルダム大聖堂で発生した火災に際しましては、私も大変心を痛めております。本件にしまして大京フランス領事を通じまして、それをもって見舞いを申し上げたところでございます。姉妹都市になりましたランスにもやっぱりその、ノートルダム、Cathédrale がありまして、あちらの方は第一次世界大戦ですごい空襲を受けて破壊されました。写真も残っております。姉妹都市になる連携として向こうの方、フランスの人の書いた文書がある、実際に書いたのは日本人かもわかりませんが、よると、やっぱり一旦地獄を見たという。

ランスは第一次世界大戦。名古屋は第二次世界大戦、そっから復興してきたということで大変精神性に共通性がある、ということをお願いされたなあと、よう覚えておりましたわね。

名古屋においても第二次世界大戦の戦火で名古屋城が焼失し多くの名古屋市民が嘆き悲しみました。

今回のノートルダム大聖堂の尖塔が崩れ落ちる姿を見たパリの人々の嘆き悲しみ、喪失感を名古屋市民は強く共感しているだろうと思います。

先日 TV のインタビューに対しまして現地の方が焼失の前の姿に復元されることを願っているという。僕がたまたまこれ、NHK だと思いましたが、と伝えられていました。

名古屋市においても引き続き名古屋城天守の木造復元事業の推進につとめてまいりたいと考えております。

ノートルダム大聖堂の一日も早く再建を心よりお祈り申し上げます。

ということですけど、まあぜひ、きょうも幹部会で言ってきましたけれども、皆さんにテレビ見ながらぜひ感じていただきたいのは、ヨーロッパの石の文化と、日本の木の文化。というのの違いですね。

まああれだけのすごい火災であっても外の外観は残ってるわけです。

両側、こう。ランスもおんなじですけども両側残っております。木造文化は違う。

ということでございますけど、木造の場合は、何にもなしになる。

名古屋城天守、まあ本丸御殿もちょっとそうですけど。

消えてしまう。焼失する。ということで、なかなかその本物をやっぱ残そうというのが文化財の精神です。

英語で言うと、authenticity とうのですけど、authenticity、オリジナルということですけども、それを残そうというのが基本的な考えですけど、ヨーロッパの場合はだから今回の事でもそうですけど。壁が残ったり、下の基礎が残ったりする。

日本の木の文化の場合は何にもなしになるんですよ。

ということで、そっから作り直していこうっていうのは authenticity としてはどう考えたらいいいんだろう。いうのはこれ歴史的な大きな問なんです実はこれ。

まあ文化庁なんかは非常に、熱心にですね、まあ若干いろんな解釈の多分ありますけど、ならドキュメントっていう。ぜひ何かネットで見ていただくとわかりますけれども、なんだか 20 年か 30 年ぐらい前なんですよ。

やっぱりその本物性というのをどう考えるかについては、やっぱりその配置といいますか、全体的にやっぱり木もものなら木のものの特質が考えるべきでないか。

という主張をしてくれておって、

今度の名古屋城が私も、そとでまあ話があった。

「河村さんそんだけ頑張ったって、焼けたじゃないかと。

全部なくなったじゃないかと。

新築建造物。だからエレベーターをつけてくれという話がありました。

ちょっと待ってくれ。松本城については。私たちはエレベーターをつけろとはいわんと。

つけてくれ。名古屋城は、新築なんだと。いう話がちょっと待ってくれ、新築って、2x4 やつてるとは違う。

これは再建ですね。これ。というものはちゃんと文化庁が認めたカテゴリがあるんだと。

河村さん早くやめさせそうな顔しとる、初めての人がよおけますので、言ってかんとわからんでしょうこれは。

非常に重要なとこかんですよ。

文化庁はしかし一定の要件をしまして、なんでもええで、新しく作ったらなんてこれが今後の性があるというわけではなくて今のところちょっといろいろたかいですけれども、あの短く言いますと、一つは、国宝とか重要文化財のような建物だったことがなくなったこと。

だからその真上に作ること。あったところに。もう一つは梁と柱とか材質とかいろんなものを含めたとこで、再現といえるものであること。

再現という表現を使ってますけど、そういう場合は、これはオリジナルなんだと。これそこが考え方の中心ですわ。

新しく作ったように見えるけどそれはオリジナルだ。

木の文化において、まあそういう考えのもとで、まあ名古屋のお城も進んできた。

ということでございます。

まあそこらを今回のノートルダムの悲劇を見がてらですね感じていただければと。

ということでございます。

1994 年ですんで、ということでございます。

市長:次に、名古屋城現天守解体に係る現状変更許可申請についてご報告いたします。

名古屋城天守閣整備事業について4月19日に現天守解体にかかる現状変更許可申請書を文化庁に提出させていただきました。

本日は事務方のトップでございます観光文化交流局長より補足の説明をさせていただきますのでよろしくお願いいいたします。

松尾局長に関しましては志願兵でございますから、珍しい。

僕が行って直接、自分の気持ちを記者クラブに伝えたいということでございます。どうぞ。

松尾: 皆さんこんにちは。観光文化交流局長の松尾でございます。多分名古屋城の天守閣の問題について局長がでてきて事務方ですね、出てきて、ご説明するっていうのは多分初めてじゃないかなというふうに思います。

また皆様の報道に対してですね、国もすごく敏感になっておりまして、たくさん国からも問い合わせをいただいていることもありますので、一度やっぱり事務方としてこの問題に対してどういうふうに考えているのか。といったことについてご説明するのもですね、よい機会じゃないかなと。いうふうに考えまして、市長からの指示もありましたけれども、私からもお願い

市長: いやいやわしゃ、指示しとらん。自分から

松尾: いえいえ金曜の夜に指示をいただきまして。話しますと。今日出ることにいたしました。まず天守閣の木造復元に対する事務方の認識でございますけれども、私どもの観光文化交流局におりますと、やっぱり名古屋城っていうのがものすごい大きなやっぱりコンテンツかと思っております。

皆様もご存じのように本丸御殿ですね、非常に大勢の方がお見えになっております。

日本人の方を含めて、外国人の方も含めてですね大変多くの方をお招きしております、本丸御殿も10年かけて再建をいたしましたけれども、やはり図面がありまして、今の技術を駆使しまして、できるだけ本物に近づけるといったようなことでございます。

また復元模写につきましても、実は西尾市政からですね綿々と復元模写をやっておりました。西尾市政は松原市政そして河村市政と綿綿とつなげてその復元模写をやっておりましたが、これもですね、やっぱり往時の姿を想像できると、特にさらに本物を一緒に出すことによってですね、両方まあ感じていただけるということで非常に多くの方に来ていただけるといったようなことでございます。

そしてあの天守閣につきましては、私達の先輩先人がですね、詳細な実測図を残していただいたといったこともありますので、私ども事務方といたしましても、何としましても、この天守の再現をしたい。というふうに思っておりますし、こういうやっぱりビックプロジェクトですね。私ども職員が携わることに対して正直喜びもありますので、なんとしても観光文化交流局の総力を挙げて実施をしまいたいと考えております。

それから申請書につきましては、市長からもご報告申し上げましたように、先週の金曜日事務方の方で出さしていただきました。皆様にはA3一枚の概略の資料を出ささせていただきましたけど、実は、これだけの分厚い資料を私どもで用意をいたしまして、文化庁さんの方に出し

ました。

相当 A3 でいえば皆さんの概略、これだけの資料がございます。

その中ではですね文化庁さんの方からもう全部目を通していただきまして、一文、一言一句ごらんをいただいて修正すべきは修正して欲しいということもありましたし、あるいは科学的な数字を色々出していますけれどもこれはどういう意味だといったことを職員がですねひざ詰め調整をしまっていました。

文化庁さん、私どもも役人なものでよくわかるんですけども、これから多分日本の中で戦後作ったお城がコンクリートで作ったお城がですね、多分これからずっとやっぱりどうするだという時代がやがてくると、そのときに私どもは先陣を切って、できるだけ石垣にまあ傷つけないような工法をまあ名古屋の技術の粋を尽くしてですね。ご提案をさせていただきましたので、ここは文化庁さんの方がやっぱり興味をひいていただけたんじゃないかなというふうに思います。

まああの石垣部会のご提案について、確かにやり切れていないといった部分がございますけれども、文化庁がですね申請にあたって5つの留意事項といったことを私どもに指示をいただきましたけれども、そのことにたいしましては事務方としてやりきったというふうに思っておりますので、ここはあとは文化庁さんの方でどういうふうにするかなといったようなことだなあというふうに思います。

なお、あの文化審議会におきましては文化庁からですね、いろいろやっぱりご指摘があるかもしれませんがけれども、それについてはギリギリまで真摯に対応していきたいというふうに思っております。

事務的にはやり切ったというふうに思っておりますけれども、それでやっぱり許可がでるというふうに思っておりませんで、市長には私共からお願いして、今週の25日の9時半に文化庁に出向いていただく予定にしております。

25日の9時半行く予定にいたしまして、本当は文化庁長官にお会いをしたかったですけれどもやっぱり向こうもご都合がありましたので、村田次長にご面会をさせていただく予定にしております。

市長には、やっぱりこの天守閣の木造化に対する、やっぱり国家的世界的なその意義、私どもはなぜこれを真剣にやりたいのかということについて、市長の口から語っていただきたいというふうに思っております。

それは私ども事務方ではですね、やっぱりその言葉の思いとか、言葉の強さということがどうしてもやっぱり表現できませんので、ここは市長に出むいていただいて、文化行政全般についてもですね、語っていただくことによって、私たちの思いを伝えたいというふうに考えております。

なお、マスコミの皆さんにおきましては、村田次長とのやり取りが詳細にご報告が多分できないと思います。向こうの先方の意見もありますので、ただ私どもがどういう主張をしてくるのかしてきたのかといったことについて、いわば天守閣の意義ですね。木造復元の意義について

まあ何らかの形でペーパーにまとめて皆様方にもお伝えをして、基本的にいけるのかなとおもいます。

それから天守閣の木造復元の時期 2022 年のことについて事務方としてやっぱりどう考えるかについてもご説明しておきたいというふうにおもいます。正直文化交流局に来る前はですね、やっぱり本丸御殿が 10 年かけてやりましたので、やはり少し時期を決めてるのは、私自身もあんまり納得をしておりませんでした。

ただ今回フランスのノートルダムの大聖堂の火災に対して、マクロン大統領が 5 年以内にやり切ると、こういう発言をされたことに対して、やはり時期を区切るというのは事務方の判断を超えている事項だなあ、というふうに思いました。

ですから、それをトップの行政をつかさどる市長が 2022 年というふうにおっしゃるならば、私ども事務方といたしましては、いろいろ困難はあるとは思いますが、それに向けて全力を挙げて取り組んでまいりたいというふうに思っております。

そしてあのこの点に対してもう一つですねお伝えしたいのが、先週あのセントレア中部国際空港の幹部の方といろいろ意見交換をいたしました。インバウンドのことに关してでございますけれども、名古屋は確かに外国人の方が増えておりますけれども、ここ 3 年 5 年がピークだというふうにおっしゃられて、この 3 年 5 年の間に名古屋の文化的価値、あるいはインバウンドを含めてその対応策をとっていかない限り、名古屋は通過地点になるといったようなこともおっしゃられました。ちょうど 2022 年というのは今年より 4 年なものですから 3 年から 5 年というなかに入っておるものですから、そういう意味でも、やっぱり多くの外国人の方に名古屋を訪れていただきまして、名古屋城を含めてですね名古屋を、この街全体をですね、見ていただきたい。これは観光文化交流局としての思いでございます。

そして最後でございます。

実はうれしいニュースですが、トリップアドバイザーですね。名古屋がいままで番外だったんですけれども、6 位になりました。外国人がみた日本を訪れたい街の中で 6 位になりました。

東京が 1 番で京都が 2 番、3 番が大阪、4 番が札幌、5 番が福岡、6 番が名古屋といったようなことだったものですから。

私どもはそれはやっぱり事務方がですね、頑張った成果だというふうに思っておりますので、何とかその上の 6 位の、5 位の福岡を抜きたい。市長も最近言いませんけど、文化で京都を押しのことでもありますので、本気になって京都を凌ぐような対策をやっていきたいというふうに思っております。そのためにはやっぱりマスコミの皆様のお力添えをお借りすることが非常に大事だと思っておりますので、観光文化交流局長の部屋いつも開けておりますのでぜひマスコミの皆さん来ていただいて、応援をしていただければなあというふうに思います。長くなりました。申し訳ございません。

市長:ご苦労さんでした。

松尾: 皆さん失礼いたします。

市長: ええ、ということで以上でございます。

記者: 幹事社から今の会見でもうしますけど市長が文化庁の次長にお会いするんですけれど具体的に何を説明されに行くんですか。

市長: まあ、やっぱり大きく言えば二つだと思います。一つはやっぱり圧倒的な名古屋市民の願いですね。やっぱり文化財というのはやっぱり日本の世界的なものでもありますけど、やっぱり市民のものでもある。これは、ええ。名古屋の街に 333 年間国宝としてあった、国宝 1 号としてあったものを失ったと。

今のフランスみりゃわかるじゃないですか。ものすご皆集まられて祈っとるじゃないですか。みんな。そういうことですね。

市民の圧倒的なやっぱり木造復元、本物復元にかける願いを伝えることです。

それから先ほど言いましたように、木の文化と石の文化との違い。

まあ、日本は木の文化で何もなしになってなんかそれで全部なくなってしまっって新たに作ったものが全く新築建築物だというような人もいますがそれは違うんだよと。

要件がありますけれども、一定の要件の中ですね。これ。再建していくと復元していくと、こういう考え方で先人の作ってきた文化的遺産をずーと将来千年二千年と引き継いでいくと。その巨大な一歩となると思いますよ。これ。ほんとに。ないんですから。初めてですから。これ。で、戦後 12 だったかな。あれ。空襲で燃えた。あるいは広島城なんかは原爆で壊れたんだけど、そういう建物がそれぞれコンクリートの天守がですね、いよいよ寿命等を迎えてきますんで、今後どうやってやっていくのかということのリーディングケース。

なるぐらいのこちらは慎重に丁寧に、文化庁さんが丁寧に、丁寧にやってよというもんで。

丁寧に上にも丁寧にやってまいったということで。僕は前にも言いましたが石垣の本物のプロの実際作るプロの方にききましたが「こんなとこまでやったお城ははないですよって石垣のこと。番号も全部つけてですね。」

ネットででましたねなんか。産経のネットだったかな。なんか。

すげーって。名古屋城の今やっ取るの。ものすごい丁寧に復元だと言ってましたので、ぜひこれはモデルになると今後のね。なっていくと思いますよ。私。初めてですから。ここまでやるのは。やりかけてもまだ 45 億ありますから。予算の中で。505 億の中に 45 億石垣のお金が入ってますから。

竹中方式というのは、やりながら、天守はケーソンで支えていますから、作ってまっけてからでも、石垣はいろいろできるわけです。

そういうこともやりながら進めていくという方式だものですから、これはこれで。中のね、中の

構想案はものすごくよく考えてあるといっとった人がいましたよ。竹中方式というのは。この辺のところ、文化庁にお伝えすると。

記者:もちろん許可するか否かは、文化審議会の先生が決めることだと思いますが、文化庁の立場からその市民の願いですとかもちろん意義を説明してもらおうということもお願いするんですか。

市長:もしよかったらわしを呼んでくれませんかって言いますけれど。ええ。
名古屋市民の願いを届けさせもらっているんですかって。イコモス、世界遺産の偉い人にききましたけど、いやいや河村さん普遍的な世界的な場所あるけど、その地域にとってどれだけのやっぱり宝であったかという、ものすごくでかいんですよって文化財の中で、意義はいうことは聞いてますんで。

記者:これは文化審議会ですもんね、許可を出すかどうかっていうのは技術的に石垣が可能かということを中心に話しあうと思うんですが、そこに市民の願いというのが要素として加わってくるもんなんですか。

市長:そうです。

記者:そうですか。

市長:そうです市民の気持ちを離れて全く別個のね、空中楼閣として文化財があるわけではありません。そりゃそうですよ、当然のことながら。
尾張名古屋からね培ってきた、でしょ。
まあようけいわれている尾張名古屋は城で持つといわれて、333年間、国宝1号だったんですから、これ。それがなんと戦争で焼けてしまってコンクリートになってしまったというこの名古屋市民の持っている悲しみというか、それはやっぱ、まあ全てというところいろいろ世界的な文化的な価値の話がでてきますけど。それはベースになると思いますよ。
何と言ったって、市民にとってどうかちゅうの。

記者:幹事社からは以上です。

記者:市長今の関連で、先ほど松尾さんも石垣部会の提案については確かにやりきれてない部分もあるっていうのも文化庁がだした留意事項についてはやりきった。というコメントがありましたけど、あとは文化庁がどう判断するかと。認められるためのポイントっていうんですかね、何が。どこが。

石垣の保全方法についてなんだと思うですけど。

どういところが認められれば解体の許可が得られる、考えていますか。

市長: 最善の方法だということだとおもいますけど。

見果てぬ夢のことを言われても困りますんで、松尾さんがいったのもそういう意味だと思う。

見果てぬ夢ということでこれもやれ、あれもやれ、これもやれことではそうなってきますとね、それはなかなか二、三十年かかるという人もいますんで。

かかっても、石垣やった場合でも、上に木造作った場合それがさらに石垣にどう影響するか、これもまた今のところはわかりませんわね、これはっきり言いまして。

ケーソンの上にのっていますからちょっと違いますけども。

だから、まあそういう状況の中で、ベストな方法でやっていくと。

記者: 石垣の先生方もかなりいろんな懸念事項を出されてますけども、その全部をやり切るのはなかなか大変だということで、やれる範囲でやったことが認められるかどうかということですか。

市長: そうですね一番極端なことをいやあ、先石垣やってまえと。極端なこと言えばね。

先石垣やってしまえというんだけどそれはどういう意味なんだと。一個一個はずんですか。石を。じゃあちゃんとできるんですかか問題になりますよ。天守そのものの耐震強度が大変低いので、危ないですから下で工事をやることは。これは。

そもそもその問題あるけどいや石垣を一個一個を外すのかと。これ。

そういうことも考えられないような話もあります。

しかし一方、私が学者から聞いたのでは「河村さん違うって、明治 24 年の濃尾地震のときにあの時は石垣の上にとたんですから、ケーソンもありませんでした。そのときに実は無傷だったんだと。完全に無傷かどうかというちょっとあれですけど。だから、ほぼ何にもしない方がいいんだ」という説もあるんですよ。これ。一方。あります。

熊本城の石垣もぜひみなさんなんべんも言っとるけど。石垣の天守、大天守の石垣は無傷ですから。12 センチ沈んだだけ。

なぜかというコンクリート 8 本のコンクリートパイルで支えられておって天守が石垣の上ののっていないで、内側はちょっと傷んでいます。大天守の石垣が、あとは無傷なんです。

だからあれを見てというのは間違いです。

だから近代工法の部分もねやっぱり意味がある。

コンクリートパイルだから、そういう中で非常に相対的な意味がある中でですね、最善の努力をしてきた。

それは文化庁さんのご指導にもとづいてまあ何度も言ってるけど、四、五年になりますよこれ。そのときにおったのは、悪いけど、文化庁さんも全部代わってます。

名古屋市役所も全部代わっちゃった。わしだけになっちゃたわけなんですよ。ほうでしょう。わしは文化庁さんから技術提案・交渉方式でいい、OKをもらって、そのかわり丁寧にことあるごとに説明してねいうもんで、ことあるごとに説明させていただいて、その指示に従ってですね、ずっとそうやってきた。

記者:ちょっと、よろしいですか。

先ほどの何を説明されるかっていう中で、名古屋市民の圧倒的な願いを説明されるとおっしゃっていたんですが、それってたぶん復元についてだと思うんですね。本来は復元はとりあえずいったん置いといて、解体について申請をされると聞いていたんですが、記者会見でも。解体の例えば危険性などは説明はされないんですか。

河村市長:うん?

記者:たぶん名古屋市民の願いというのは解体、

市長:いやいやそれは理屈であってですね、それ全体がですね、木造復元にあるということはそれは分かりきつとるわけで技術提案・交渉方式でやってきましたんで。

だから、これは全体の一つの大きな流れは言いますよ。

だけど、まず第一歩として、こちらのよっぽど気を使ったやり方なんですよ。

文化庁さんにも石垣部会の方にもこれ。よほど気を使って石垣だけをまず先に先行して取り壊す。

記者:天守閣だけをまず壊すんじゃないですか。今石垣を壊すとおっしゃって

市長:え、いやいや天守をあってですね、失礼、失礼。まず天守だけをまあ壊させていただくと。やりながらもいろいろ進めていくわけですけど、これは非常に気を使った考え方なんです。これは。丁寧にやってきたということです。

記者:全体的な流れを話されてそのときに向けた流れをお話された、流れと意思をお話された上で解体の意義について、お話しされてくると

市長:それとずっとこの4、5年前から私しかおりませんので、先にいった話です。

文化庁さんと丁寧にうえにも丁寧に話をきて、文化庁さんの指導はしますから。

ご指導にのってその通りやってきた。

最大限の丁寧さで、やってきたということを盛んに言うつもりです。これは。

記者:ちょっと繰り返しになっちゃうんですけど、石垣部会の先生がたが要望していることを全部仮に満してなかったとしてもですね、解体が認められる可能性はあるという。

市長:いや私がやってますよ。僕はちょっと今のニュアンスと若干違うという感じ。これはもう完全に言われることをやってきた。見果てぬ夢というような話是不可能的。これは冒頭から違うんだと。

見果てぬ夢でやりますと、初めのね技術提案・提案交渉方式でやるときには私も議事録が出てますけど、書いてありますけど石垣に10年20年かかるという説は十分あったんですよ。これは。そんなことやるとると天守の耐震性が持たんから、もうこれは天守やコンクリートで修繕にどうかというになってしまうと。そうなるとうちそういうことになりますと。

一般的にいうと30億。それで、50年、一般的にいうとね。となぶれんわけですよ。

と、私どもが名古屋市民として願っておる木造復元の姿が見れないと、いうことなっちゃいますよね。だから、そういう中でどういうふうにやったらいいんですかという場合、市営住宅をつくるので違うんです何遍もいわないかんですけど。

技術提案・交渉方式というのも、その当時の国土交通省の皆さんが、要するにその時の1年前に全党一致で即日施行された公共工事の発注方式ができましたので、それはどういう方式という公共工事発注の時点において、そのスペックを発注側が決めきれないとき、一番最初からプロポーザルをもらってそこでコンペしていくという方式が通りましたと国会で。

みなさんばつとわからんかもわからん。

それが第1号ですこれ。その前の1号は国立競技場です。これ。

ならまあ、そういうやり方でやってきた。いうことですよ。

私はこれ以上ベストを尽くす方法はなかったと思いますよ。これは。

私からすれば、いまから石垣を全部やってくれいわれてもですねこれ。

じゃどうやってやるんですか、外すんですかって、一個ずつ石を。ものすごく危ないですよ。それは。

それと一個一個の石が本当にどれだけの体力、強度があるかについては、非常に難しいですね。やっぱり。

石垣整備の手引という文化庁がつくったのがありますが、あれ何度か読みましたけど。

ある石が一定の圧力が加わったとき壊れるかどうかどうも現代的には断言できんかわかんけど、どうもそこまではきちっとしたのなないみたいですね、知見は。これ。

ほとんどたらいまわし、ある一定の石垣群のありますわね。孕みの部分もあるでしょう。

あそこはほんとにどっからどういう力が働いて崩れるの崩れないの石が壊れるのか。

中々これはちょっと断言は非常に難しいと思いますよ。

だけど丁寧にやっていかんとね。これ。最善の努力をする。

新しい方式が生み出されるじゃないですか。これで。

名古屋モデルとなって石垣部会の人もものすごい喜んでくれる方法ができると思いますよ。

記者: 読売新聞の山下ですが、許可がもしえられなかった場合の善後策というか対応は考えていらっしゃると思いますか。

市長: それ議会でも質問がありましたけど、そういう失礼なことは申し上げられん。

こちらが心を込めて誠心誠意お願いしとるのに。

その、もしダメだったらというようなことをいうのは失礼だと文化庁に。

記者: いかどうかは別として、市長の頭の中では、

市長: ほらもう世の中はいろんなことを考えておりますけどね。それは。

ただどこんなどこで申し上げる、なんじゃということになる せつかく考えてくれとるのに。

わしゃ、いい結果が出るもんだと。これは信じてやみません。

記者: 前回の会見でもありましたけど責任をとるのは自分ひとりじゃなくて自分1人とはいっていないという発言が前回の会見でありましたけど、それはいまま変わらないですか。

市長: 責任を取るといったってわし、これだけ忠実にやってきて文化庁の言われたとおり、本当に。さらに丁寧だったと思いますよ。それは分かっておりますってと云っ取りました。文化庁。

記者: 前回その指示書の話をごだされてそう全責任を取るという記述があることについて

市長: 技術提案・交渉方式で行うことについて、全責任を取る。

記者: それでそれはご自身で1人で責任を取ると書いてないとおっしゃっていましたが。

市長: いや自分で書いただけだから自分だけのことですけど、しかし文化庁、勝手にやったわけじゃなくて、勝手にやってきたわけじゃないぞ。これ。国交省それから文化庁、ものすごく丁寧に相談してやってきたことだと、そういうこと。

記者: 全責任をとるというのは自分1人が責任を取ると解されますが

市長: そりゃしりませんけれど。辞めて済むような問題じゃないですよ。言っときますけど。これ

ほんとに。こんなもん。ええ。3億3千万かな。今寄付を集めて。ええ。

それは小学生の十円募金もはいつとるからね、言っときますけど。

それから俺の知つとるある業種の中小企業の親父も百万円もってきた人もあります。

もしうまいこといかんかったら返してくれよ。これは。そういう話ですから。辞めるやめないのそんな問題じゃなですよ。